

環境経営ビジョン

カシオは「エネルギー問題」（資源枯渇問題）と「地球環境問題」（温暖化問題）という2つの深刻な問題解決に取り組んでいます。

環境経営の実践

カシオは創業以来一貫して省エネ・省資源の製品づくりをしてきました。省エネ・省資源の製品を2つのモデルを使って、「資源生産性」指標*で比較すると実に142倍の向上を実現してきた歴史があります。

この「製品づくり」は、調達・製造・販売・使用・廃棄・回収のプロセスにおいて、すべてのステークホルダーに対して、少なからず省エネ・省資源の環境経営に貢献してきたことを意味します。これらの成果はカシオの環境適合製品開発に継承され、今日売上高の77%がグリーン商品で構成されるまでになりました。

2008年は京都議定書の第1約束期間の初年度にあたります。カシオは温室効果ガスについて環境行動目標に掲げ、事業規模あたりの排出量削減に取り組んできました。2008年からは原単位削減から絶対量の削減目標を掲げ、取り組んでいきます。

カシオは、京都議定書の温室効果ガス SF₆（六フッ化硫黄）の代替ガス化（F₂ガス）の技術開発に成功しました。液晶や半導体産業界のCO₂削減に大きく貢献する成果です。

さらに、希少金属の枯渇問題に対しても経済産業省が企画した「希少金属代替材開発プロジェクト」に参加し、超希少金属「インジウム」の使用量を75%減らす液晶材料の技術開発（透明電極膜を酸化インジウムすずから酸化亜鉛に置き換え）に貢献しています。

カシオは環境関連法律の要求事項を満たすことは自明の事と実践しています。コンプライアンスの先にある、望まれていることを環境経営の中で推進していきます。

これからも「創造 貢献」の使命を行動に表し、形にして「エネルギー問題」や「地球環境問題」の解決にイニシアチブを発揮していきます。

代表取締役副社長
カシオ環境保全委員会 委員長

榎尾幸雄



カシオ環境憲章と環境基本方針

カシオ環境憲章

カシオは地球環境保全のためにカシオグループ全体の事業領域に亘り、企業の環境責任の重要性を認識し、広く国際社会という視点で世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すべく基本方針を定め、具体的な施策を掲げ、実行に努める。

環境基本方針

1. 国内海外の環境関連法律、協定、規準を順守する。
2. 製品の開発、設計、製造、流通、修理サービス、回収・廃棄の各段階において環境への配慮を踏まえた自主的な「カシオ環境保全ルール」※を定める。カシオグループ全事業部門は責任を持って実行するとともに、その順守度を監視し継続的な改善をはかる。
3. 企業の社会的責任という立場でよき企業市民としてカシオグループ全員が地球環境保全の重要性を認識し、意識昂揚をはかる。
4. 本方針は、国内、海外のカシオグループ全事業部に適用する。

※「カシオ環境保全ルール」は「カシオ環境ボランティアプラン」に定める具体的な環境保全実施項目です。

カシオ環境ボランティアプラン

環境行動目標

※資源生産性＝価格÷製品重量
1957年：リレー式計算機 14-B 資源生産性 3.46円 g=485,000円 /140,000g
1983年：フィルムカード電卓 SL800 資源生産性 491円 g=5,900円 /12g

2008年度カシオグループ環境経営方針

環境経営方針 「環境経営先進企業カシオの基盤強化と確立」

- 1：環境法規制順守とリスク管理
- 2：環境経営度の向上
- 3：環境経営を通じた CSR 経営への貢献
- 4：人と環境に優しい商品開発

